

資源総合リサイクル施設、今夏稼働へ 年間4~5万tの取扱い目指す

日本紙パルプ商事(株)
有価物回収協業組合 石坂グループ



上:事務所棟(完成イメージ図)、下:工場全景(完成イメージ図)

熊本市の湾岸部の好立地

日本紙パルプ商事(株)(東京都中央区)と有価物回収協業組合石坂グループ(熊本市、石坂孝光代表理事)が設立した(株)エコポート九州(熊本市、石坂孝光社長)の総合リサイクル工場の起工式が2009年11月18日、熊本市新港の建設予定地で催された。

新工場は、総事業費40億円を投じ、熊本市の湾岸部に位置する用地(敷地面積/2万7866m²)に建設される。順調に進めば、10年7月にも操業を開始する。

事業は4本柱で展開

事業としては、①廃プラスチック材料事業②機密文書溶解・リサイクル事業③木質原料製造事業④固形燃料(RPF)製造事業—を柱に据え、展開する。

廃プラスチック材料事業は、回収した廃プラに光学多重選別を施した上、破碎・洗浄。高純度な再生ペレットを製造し販売する。

機密文書溶解・リサイクル事業は、自主回収または自治体や企業から機密文書を受入れ。保管箱は開封せず、そのまま溶解し古紙パルプを製造、製紙メーカーへ出荷していく。

木質原料製造事業では、風倒木や間伐流木など生木類、建設木くずなどを集荷。破碎・圧縮、固形化し木質ペレットを製造する。原料としてボードメーカーに出荷するほか、農業用ビニールハウス等で燃料利用していく計画である。

RPFは、工場内各施設の工程で発生した廃プラ、機密文書、木質原料などの残さを主原料に製造する。近隣の製紙工場や温泉施設などに燃料として供給していく。

(株)エコポート九州では4事業トータルで、年間4~5万tの資源物のリサイクルを見込んでいる。 **NX**